

さらに6月16日、子供たちと一緒に生き物調査を実施しそこにタコが兵庫運河で初めて見つかった。この取組、兵庫漁協、浜山小学校、兵庫運河を美しくする会など、積極的に参加され、国交省、神戸市、地域と行政が一体となった環境改善に取り組んでいるのは、意義深いものだと感じている。

兵庫運河を所管する港湾局として、この環境活動について、どのように評価されているのか。



兵庫運河の天然あざり

長谷川港湾局長 兵庫運河は非常に水質が悪かったのが改善できたのは、地域の方や様々な方々の御尽力、御努力の成果だと思う。非常に感謝を申し上げたい。

私も、兵庫運河に20年ぐらい前から関わっており、当時は水質の状態が悪く、今の組合長はバイオの力を使いながら水質浄化できないか、そんな取組をされてた記憶がある。そういう1つ1つの取組が、今の兵庫運河の水質改善につながっていると考えている。

アマモ、アサリが生息するのも、かなりの努力の成果だと思う。実はアマモは神戸港でも見れないもの。一番きれいな海での舞子でしか実はアマモがなかなか見れないのが現状だ。

アサリも天然でこれだけいる所は限られている。やはりこれも兵庫運河は自然環境が極めて高い状態。

県立の非常にすぐれた高校生の皆さんが、この兵庫運河を訪れて、実際の研究をされていると聞いている。非常にレベルの高い、学習拠点と研究拠点になっているイメージが私にはある。ここまで先進的なエリアになった兵庫運河をつくっていただいた地域の皆様方に、感謝し、これからますますの発展をさせたいと思う。



兵庫運河の地曳網で採れたアナゴ

平野達司 まさにこの環境の状況を持続可能に続けていくには、研究していただいている大学の先生、高校生の努力、それと併せて、子供たちに環境授業をつうじて、意識を高めていく必要もあると思う。これが次世代の子供たちにつながっており、実際に浜山小学校の子供たちは、環境意識はすごく高まっている。さらに保護者まで意識が高まっている。



兵庫運河で採れたタコ

教育委員会への質疑を通して、浜山小学校以外の小学校にも、環境授業が広げられないかと検討している。あとヴィッセル神戸と初めてのコラボで、6月26日の日曜日に子供たちを対象にした神戸港わくわく環境調査教室という環境授業を含めて、ブルーカーボンの取組をヴィッセル神戸の試合前に開催されることになった。子供たちにこの環境の意識を高めていくには、港湾局は、小・中学生を対象に配付している副読本を通じて、兵庫運河の豊かさや神戸空港島の傾斜護岸の活用など環境についてもPRしていく必要があるのではないか。

川中港湾局副局長 港湾局では、神戸・みなと体験や神戸港バックヤードツアーなどで、広報の強化にも取り組んでいる。特に脱炭素を目指す取組への機運が高まる中、港湾局としても兵庫運河の豊かさや神戸港の環境施策を学ぶ機会を創出することは、非常に重要であると考えている。

兵庫運河のプロジェクトはもちろん、神戸空港の護岸でも藻場が形成されていることから、委員提案の神戸・みなと体験において、神戸港の環境へ取組を実際に体験していただくプログラムを設けることができるよう、今後、地元の団体と協議を進めていきたい。副読本についても、次回の刷新するタイミングに合わせて、子供たちへの環境意識を高める取組も引き続き実施していきたい。

平野達司 ぜひ進めていただきたい。

先日、世界一受けたい授業というテレビ番組で、神戸空港島の傾斜護岸のアマモが放送された。ブルーカーボンにつながる取組、神戸空港、神戸港の海の豊さをもっとPRすべきではないか。

兵庫運河をはじめとするそのブルーカーボンの取組、これをPR動画を作って、もっと発信すべきじゃないか。



経済港湾委員会(6月20日)での質疑